



2023年12月6日

ゴルフ産業の利害関係者 宛

ディスタンスインサイトプロジェクトの更新

本日、私たちは2018年に始まったディスタンスインサイトプロジェクトに関して3つの重要な更新をお伝えいたします。R&A と USGA が2020年3月に発表したディスタンスインサイトレポートでは、飛距離と飛距離がゴルフに与える影響についてこれまでに実施された最も包括的な分析を示しています。

私たちのディスタンスインサイトプロジェクトを通じて、ゴルフの健全で持続可能な未来を確保することに目を向ける一方で、私たちは用具、ゴルフコース管理、ローンチモニター、フィットネスを含むイノベーションの影響を理解するためにデータを利用することに焦点を当ててきました。産業界の利害関係者やパートナーたちとの議論のみならず、私たちの研究や再考察を通じて、継続する飛距離の増加がゴルフにどのような影響を与え得るのかについてより幅広い、偏見のない長期的な視点を持つ一方で、私たちはゴルフの現行の機運や成長を受け入れ、尊重するように努めてきました。

私たちが産業界と連携して収集し、分析したデータは、特にエリートレベルでの飛距離は大幅に、そして長期間にわたって継続的に増加してきた（そして、私たちがディスタンスインサイトレポートを発表してからも実際に引き続き増加してきた）ということを明白に示しています。この傾向が止まるということを示唆するものは何もなく、最近のデータに基づき、飛距離は将来においても増加し続けると私たちは考えます。

総距離を含むゴルフコースの完全性を保護することやゴルフコースをプレーするために様々な技術を必要とすることを確保することは、ゴルフの基本要素を維持します。こうした両方の特徴は飛距離の増加によって影響を受けており、こうした傾向に今何も対処しなければ引き続き影響を受けることでしょう。加えて、環境への影響、それがゴルフコース、ゴルフコースの運営者、そして最終的にはゴルファーや彼らの地域にとって何を意味するのかをゴルフは認識しなければなりません。より距離の長いゴルフコースはさらなるリソース（水や栄養素を含む）を必要とし、そうしたすべてが環境コストや経済的コストを伴います。

2022年と2023年に私たちはボールとドライバーに関連する提案を行い、産業界にゴルフ全体を通じた解決策とローカルルールひな型を通じたエリートゴルフだけを対象とすることのどちらがより効果的で適切であるのかについての対話を奨励しました。私たちは何もしないということは無責任であるという確固たる見解を明らかに表明しながらも、広く意見を求め、慎重に耳を傾けてきました。本日お伝えしている変更はその対話の過程を反映しています。以前、私たちはエリートゴルフ

だけを対象とした変更を提案しましたが、私たちはゴルフにおける統一の重要性、主に単一のプレーの規則と単一の用具規則を維持することの重要性を強調する幅広い利害関係者/プレーヤーたちからのフィードバックを取り入れました。このフィードバックは、ゴルフ全体を通じた解決策を時期を遅らせて施行することが望ましい解決策であることを明らかに示していました。

この変更は、ゴルフにおける飛距離の一貫した増加の長期的なサイクルに対処し始めることになり、将来の世代のためにゴルフを保護し、恩恵を与える支援となります。私たちはゴルフの長期的な健全さのために最善のことに専念し続け、誤解のないように言うと、将来において私たちはゴルフにおける飛距離やその他のプレーの特徴を適時に監視するために主要なツアーや業界のパートナーたちに関与し、さらにいっそう緊密に連携していきます。この積極的な取り組みは、用具規則が普及している技術とプレー環境を反映していることを確保することでしょう。

本日、私たちは下記の更新をお伝えします：

1. **2028年1月から、標準総合距離（ODS）にしたがってゴルフボールをテストするために用いられる速度についてゴルフ全体を通じた変更を私たちは施行します。** 2028年時点で適合性のために提出されるすべてのゴルフボールはこの新しい基準に準拠する必要がありますが、こうした変更は2030年になるまではレクリエーションゴルフには影響せず、その後も最小限の影響となります。
2. **用具規則に規定されている上限を超えるドライバーとなり得る「ドライバーのクリープ」をより良く検知するために検査方法を拡大することを私たちは計画しています。**
3. **私たちはドライバーの監視を続け、飛距離に関連する実行できる追加の選択肢を詳しく調査します。** 具体的には、私たちはドライバーの許容性と中心を外れたヒットでドライバーがどのように動作するのかを研究します。これは現在行われている見直しであり、私たちはミスヒットに対して中心でのインパクト位置に報いるための手段として潜在的に規制し得るドライバーのデザインの特徴を特定するために製造業者を含む業界からのインプットを求めており、連携を続けます。

上記のポイントのより詳細な説明は下記に示されています：

1. **ゴルフボール—修正された ODS でのクラブヘッド/ボール速度**

私たちは適合ゴルフボールのための標準総合距離（ODS）でのクラブヘッド速度を現行の120mph から125mph に増加させること（ボールのテスト速度を現行の176mph から183mph に増加させることと同等）と打ち出し条件を修正することによってテスト条件を更新します。

これは20年以上なされていなかった基準の更新となります。近代のゴルフをより正確に反映することを意図したこの更新された基準は2028年1月から発効します。この施行時期は、製造業

者にボールをデザインし、テストし、製造し、流通させるために必要な時間を与えるように選定されました。

加えて、レクリエーションゴルフに関しては、2027年12月31日時点でのすべての既存の適合ボールは2030年1月1日まで引き続き使用することができます。この段階的な施行はレクリエーションゴルフと小売店への影響を少なくすることを意図しています。

この ODS テストの変更は、最も速いボール速度を発生させるゴルファーたちに最も影響し、ロングストヒッターたちについてドライビングクラブで13~15ヤードが予想されます（平均的な PGA ツアーや DP ワールドツアーのプレーヤーたちへの推定される影響は9~11ヤード、平均的な LPGA や LET のプレーヤーたちについては5~7ヤード）。この新しいテスト速度では、ほとんどのレクリエーションゴルフについて飛距離の減少は最小限であり、1~5ヤードと推定されます。

標準総合距離は1976年に初めて導入され、最も速いスイングのゴルファーたちによって使用されたときの用具の有効性を再現することを常に意図してきました。ODS のテスト速度は当初 109mph のクラブヘッド速度に設定され、2004年に120mph のクラブヘッド速度（176mph のボール速度でのテストと同等）に更新されました。参考までに、PGA ツアーが2007年に初めてクラブヘッド速度とボール速度の追跡を導入したとき、シーズンを通じてボール速度で上位25名にランクされたプレーヤーたちの平均は176.6mph（それより3年前に導入されたテスト基準と同じ速度）でした。2023年シーズンについて同じデータを検証すると、上位25名の平均ボール速度は183.4mph であり、これは2028年から用いられることになる修正されたテスト基準（183mph）と一致しています。この分析は私たちが以前の変更と一致する方法でテスト速度を増加させていることを裏付けています。

ODS の変更に関する正式な決定通知と計画されている施行は[こちら](#)から閲覧できます。

2. CT テストより効果的に「クリープ」に対処する

特性時間（CT）のテストに関して、私たちは現在のドライバーを製造するために用いられる多くのデザインや素材は使用中に大きな変化を受ける可能性があるという意義深いフォードバックおよび/または懸念を受け取りました。こうした変化は、そのクラブの CT 値（スプリング効果）が適合の上限を超えて増加する結果となり得るもので、業界では「CT クリープ」として知られています。

重要なこととして、本日の告知はゴルフクラブの CT について実施されている現行の基準を変えることはないということです。しかしながら、多くのクラブが測定誤差の上限近くで製造されており、繰り返しの使用を通じてそうしたクラブが変化していくにつれて、結果として CT の上限を超えることがあるということが明らかになっています。

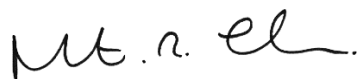
したがって、R&A と USGA は測定誤差レベルに近く、通常の使用を通じて CT の上限を超える可能性が高い CT 値を有するドライバーのモデルを特定し、積極的に対処するために、提出されたドライバーに追加のテストを導入します。こうした積極的な方法はドライビング飛距離への影響はほとんどないでしょうが、利害関係者が予期する基準が将来のイノベーションでも維持されることを確保するために提案されています。

この提案に関する製造業者への正式な告知は[こちら](#)から閲覧できます。

3. エリートプレーヤーたちのドライバーの許容性の研究の継続

私たちはエリートゴルファーたちが使用するときのドライバーの許容性のレベルに関して利害関係者が関心を寄せていることをますます意識しています。具体的には、中心を外したヒッティングが正確性や飛距離に与える影響が最小限となることによって、より速いクラブヘッド速度の追求を続けることについてエリートプレーヤーのリスクが限定され、リスクと報酬というゴルフの重要な特徴が損なわれていることに利害関係者の一部は懸念を表明しました。現時点で私たちは中心を外したヒットの代償として中心でヒットするドライバーの性能に報いるための効果的な解決策を特定していません。エリートゴルフで使われるドライバーのためのローカルルールひな型の以前の研究では、すべての可能性のある提案は（ドライバーだけではなく）複数のクラブに影響するであろうことが分かっていました。私たちはこのトピックについてさらに研究していくとき、産業界のパートナーたちと緊密な連携を続けます。

要約すると、私たちはかつてゴルフにおいて行われた中で最も深く、包括的な飛距離の見直しを実施し、ゴルフ全体にわたる利害関係者たちと協力して、建設的に連携しました。私たちはこの長期にわたるプロセスを通じて、真にゴルフの最大の利益とゴルフの長期的な将来と持続可能性のために最善となることをするという明確な目的を持って行動しました。利害関係者たちとの広範囲に及ぶ話し合いを通じて、私たちは表明された様々な見解を聞き、耳を傾け、熟慮し、応答しました。私たちは産業界を通じて受け取った貢献にとっても感謝しています。それは私たちが（ゴルフが適応する時間を与えるための施行を遅らせながら）効果的で適切なゴルフ全体を通じた解決策に到達する支援となりました。私たちはこれから数年の間にこの解決策を施行するために産業界と連携することを期待しています。



Martin Slumbers
CEO, The R&A



Mike Whan
CEO, USGA